

## 令和2年度 第1回平田地域協議会会議録（要約）

日 時	令和2年6月26日（金）午後1時30分～午後3時15分	
場 所	平田農村環境改善センター ホール	
出席委員	14名	
	1号委員	石井 光一 田中井広志 佐藤 美恵 高橋 弘弥 熊谷 一志 前田 恵次 長谷部耕次（会長） 今井さち子 丸山 清 今井 宣幸
	2号委員	高橋美人貴 石黒 由香（副会長） 高橋 栄子 長堀 恵理
欠席委員	1名	
	2号委員	須田 祐司
酒田市出席者	企画部企画調整課長	中村 慶輔
	市民部まちづくり推進課長	長尾 和浩
	平田総合支所長兼地域振興課長	山口 貴明
	平田総合支所建設産業課長	佐藤まゆみ
	市民部まちづくり推進課課長補佐	松永 隆
	平田総合支所建設産業課長補佐兼建設係長	渡辺 一正
	平田総合支所建設産業課長補佐兼産業係長	中條 和志
	平田総合支所地域振興課長補佐兼地域振興係長	高橋 美津
	企画部企画調整課企画調整係長	関口 誠
	平田総合支所地域振興課地域振興係調整主任	小林 裕介
	市民部まちづくり推進課地域づくり係主事	小山 薫
	市民部まちづくり推進課地域づくり係主事	讃岐 祐香
傍聴者	なし	
議事日程	1. 開 会 2. あいさつ 3. 会議録署名委員の選任 4. 各種計画について (1) 新市建設計画の変更（計画期間の延長）について（企画調整課） (2) 新たな過疎法の制定に伴う本市過疎計画の策定について（まちづくり推進課） 5. 報 告 (1) 令和元年度 三地区地域協議会合同市長報告会 報告 (2) 令和2年度 平田地域づくり予算 (3) 令和2年度 平田地域の行事・イベント予定表 6. 協 議 (1) 令和2年度 平田地域協議会年間計画 (2) その他 7. その他 8. 閉 会	

### 【協議会の概要】

各種計画（新市建設計画、過疎計画）の説明があったのちに令和元年度市長報告会、令和2年度平田地域づくり予算及び行事・イベント予定について報告があり、今年度の地域協議会の年間計画について協議した。今年度の年間計画は4回開催とし、そのうち3回目に市長とのグループミーティング、4回目に市長に報告する地域課題を協議することとした。

## 【会議録（要約）】

### 1. 開会

- ▶事務局より開会と委員1名欠席の報告

### 2. あいさつ

- ▶長谷部耕次会長あいさつ
- ▶山口支所長あいさつ

### 3. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員は、名簿の順番に指名することとし、石井光一委員を指名した。

### 4. 各種計画について

#### （1）新市建設計画の変更（計画期間の延長）について

- ▶中村企画調整課長が資料に基づき説明したのち、当日追加資料として配布した7月2日開催のデジタル変革に関するセミナーについて説明した。

#### ○長谷部耕次会長

生活にデジタルは確かに必要とされているが、現実的には一人10万円の交付制度についても年配の方々等には、手続きが困難であると評判が悪い。やる以上は、そういう方々に理解をしていただくために、どんな手法があるかよく考慮していただきたい。経費をかけて実施する以上はそういった面も調査が必要だと思うが、いかがか。

#### ○中村企画調整課長

デジタルを用いた手続きが可能になるよう、なるべく多くの方から研修に参加いただきたく、また、研修機会を多く設けたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

#### ○熊谷一志委員

合併特例債が5年間延長されるとのことだが、過去にどんな事業に使われたのかお尋ねしたい。

#### ○中村企画調整課長

平田地域では、タウンセンターの関係や公共事業整備に充てられた。

#### ○熊谷一志委員

合併特例債は、我々の借金になるのか、またはその部分を振り替えて補助金か交付金になるのか、教えてほしい。

#### ○関口企画調整係長

合併特例債は地方債のため借金ではあるがとても有利な借金で、通常の地方債は借り入れできる金額が事業費の75%程度であるのに対し、合併特例債は事業費の95%を借り入れることが可能である。例えば1億円の事業では9,500万円を借り入れすることが可能となり、借り入れた額の70%、6,650万円が後年度地方交付税として措置される。つまり、1億円の事業が実質的には3,000万円程度で実施できるという非常に有利な地方債ということになる。

#### （2）新たな過疎法の制定に伴う本市過疎計画の策定について（まちづくり推進課）

- ▶長尾まちづくり推進課長が資料に基づき説明した。

#### ○石井光一委員

過疎法について、やまもと農村交流センターにモデル事業で事務員が1名配置されているが、今年度でモデル事業が終了となるので、新たな形での事務員の配置と考えた場合にこの過疎法における過疎債というものを適用することが可能かどうかお尋ねしたい。

#### ○長尾まちづくり推進課長

現在、やまもと農村交流センターには地域おこし協力隊とモデル事業の職員の方が配置されている状況だが、過疎債については今年は周知する期間になる。どのような財源を使っていたかはこちらのほうでも工夫しながら進めたいと考えており、調整したいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

## 5. 報告

### (1) 令和元年度 三地区地域協議会合同市長報告会 報告

▶山口支所長が資料に基づき説明した。

○今井宣幸委員

三地区合同市長報告会について、資料にある市長からの答弁を拝見してとても違和感があった。なぜそういう答弁だったのかさらに資料を読み進めると、提案した内容に「旧平田町では2億円以上の費用をかけて観光地化してきた経過があり、県が選定した云々、広域観光の視点から滝見台を復旧する必要がある」と「復旧が困難な場合、他の見学可能な場所を開拓すべきである」というものになっていたが、地域協議会ではそのような取りまとめにはなっていなかったはずである。この件について、説明をいただきたい。

○山口支所長

ただいまの件は、昨年度に皆様から現地研修に行っていたいただき、その後第3回目にいろいろ議論をしていただいた内容である。当方の資料の出し方が不適切だったということで、お詫び申し上げたい。なお、当日に長谷部会長からのお話しの中には、かなり実現性の低い部分についての言及は無かったと記憶している。登山者の安全安心の確保ということを強調してお話しいただいたと記憶しているので、この辺を踏まえて令和2年度の協議会としての活動に向かっていくべきかと捉えている。

○今井宣幸委員

市長報告会というものは、平田地域協議会で話をしたことを取りまとめて市長に報告をするという会であると認識している。そういう意味でも資料の出し方としても優先順位の高いものから記載すべきだと思う。優先順位としては3番目の項目のほうが協議をしてきた最終段階での取りまとめの内容なのに、なぜ3項目目になるのか、こちらのほうを第1にすべきではなかったのかと思う。もちろん整備ができれば一番いいということはみなさん承知の上であるが、現実的にどうなのかとなれば、滝見台の整備は無理だろう、いろんな状況下のもとそれはもう無理だろうと。滝見台が無いのであれば橋は必要ないだろうと。そして残すものと残さないもの話になり、橋は撤去したほうが良いのではないかという意見が多数あった。先ほどの説明に今年度の行事・イベント予定として1月の冬の十二滝と温泉ツアーという予定もあるが、遊歩道の整備を最優先にするのか、行事の予定があるのであれば、その安全安心を確保するためのことを最優先にしていくのかを考えたとき、この報告の仕方はいかなものかと思う。一度にできないのであれば例えば1期工事、2期工事という形で2回に分けてやるとかの方策を提案していくとか、冒頭会長が話したように、より良い平田の地域のために現実的などころから提案をしていただきたいと思う。これから市長との懇談会とかグループミーティングもあるのでそういったところかれらぜひ進めて行っていただきたいと思う。

○佐藤建設産業課長

令和2年度の十二滝の整備の当初予算はつかなかったが、他の施設も加わった全体の修繕費の中からいくらか十二滝の遊歩道の整備に予算を充ててもらおうようお願いした。交流観光課のほうからも転落防止柵を今年と来年度に少しずつつけていただいた。見積もりを取り、遊歩道の手摺の部分等を修繕していく予定である。順次、交流観光課と予算面の調整をしながら、上流部分の遊歩道も含めて計画したい。

○長堀恵理委員

資料3-1の5ページ目に山元分館のことについて書いてあるが、地域協議会では話し合いをしていない内容でなはいかと思う。資料には「地域おこし協力隊が施設を活用している。来年もう一年ある」というのは今年の話であり、今年もし地元で使うようであれば使ってもらいたいということなのか。それとも先ほど石井委員がお話ししたように来年度も使いたいとなれば予算をつけてもらえるかという話だったが、そういう意味にもなるのか。「空き家になるようならば解体も検討する」ということになっているが、もし使うとなれば地域おこし協力隊の方が新しく入って使うのかとか、そこまで話し合っていなかったのではないか。

○山口支所長

やまもと農村交流センターの今後の関係については、平田地域協議会の案件としては上げていなかったが、なぜか市長のほうから唐突に回答あったものだった。地域おこし協力隊という表記をあ

まり意識しないようにしたい。山元地区あるいは田沢コミュニティ振興会として今後ともある程度使用して活用していくということで私から返している。ぜひとも今後ともいろいろとご協力頂きたいのでよろしくお願ひしたい。

○長堀恵理委員

田沢地域全体で使うようだったら使ってくださいということは、今、事務員さんと地域おこし協力隊のお二人が事務所に席をおいて毎日来てくれているが、お二人は今年いっぱいまで任期が終わる。来年は給与も発生しないしそこにもう席も無くなる状態になると思う、来年度も地域で使っていていいですよとなった場合、公民館時代に戻るということか。それとも事務員を募集して来年度以降も地域のほうで使えるよう事務員を置くという話で、農村交流センターとして来年度も活用していけるのか。どちらになるかまだわからないのか。

○山口支所長

モデル事業のほうも今年で終了することに伴い、事務員をどうするのかという点については別のお話したが、今展開している事業は事務員がいらないからできないという事業ではないと思う。田沢コミュニティ振興会としてどういうことをやりたいのか、あるいは山元の地域としていろいろやっている事業をどうやって継続していきたいとかといったような、お互い皆さんのやるという意識がなければ無くなるぞとも言われかねない。せつかくの施設なので、事務員がいるから、やってもらえる人がいるから、というのではなくて自らという形で活性をしていく施設であるということをお願いしたい。

## (2) 令和2年度 平田地域づくり予算

▶山口支所長及び佐藤建設産業課長が資料に基づき説明した。

※ 建設産業課より、田沢川ダムまつり実行委員負担金について開催予定日の訂正の説明

10月20日(火)を10月18日(日)に修正

○佐藤美恵委員

今年度はコロナ対策もあり、いろんな事業の中止が相次いでいる。コミュニティ振興会で予算化されている金額が余ったら来年度にまわすのか、別のものに使うのか確認したい。

○山口支所長

地域づくり予算については使用しない場合は減額するか残すことが原則となる。また、新年度のときにどうなるかということはコロナの状況で予測できないが、我々はまずは今年度で事業を組んで参りたいと思っている。

○長尾まちづくり推進課長

コミュニティ振興会のみなさんは、ひとづくり・まちづくり総合交付金を活用したものと会費を使って事業を展開されているかと思う。今年事業ができなくてその分余った予算いわゆる剰余についてどうするのかということだが、コミュニティ振興会の事業で残った交付金については、基本的にはすべて使い切りたいとは言わない予定である。目的を明確にして積み立てをしていただきたいということでお願ひしたい。余ったお金をただ単に繰り越すというのではなくて例えばコミセンのために積み立てをしますよという形での積み立てや、修繕をしたいのだが、市のほうで予算がつかないため、こういった形で使いたいという用途を明確にしたうえで翌年度に積み立てるという形で残すという積み立てをしていただきたい。コミュニティ振興会さんのほうから問い合わせをいただければそういうお答えをさせていただき、事前に通知をさし上げる予定である。

## (3) 令和2年度 平田地域の行事・イベント予定表

▶山口支所長及び佐藤建設産業課長が資料に基づき説明した。

※ 7月31日(酒田港まつり・花火ショー)、8月1日(酒田港まつり・酒田花火ショー)、9月27日(首都圏ふるさと平田会)、11月3日(日本の芸能を楽しむ会)を中止の旨説明

※ 8月14日(庄内ひらためん玉夏まつり)の中止、冬場のイベントについてはコロナウイルス感染症の第2波、第3波を危惧して密にならないよう留意する旨説明

○長谷部耕次会長

ひとつ確認をしたいのだが、一昨日この場所で商工会の理事会があり、その際には大勢の人が参集する事業はすべて検討課題になっていて、実施するという結論は出ていない。例えば花火の時もそうだが、農協祭りの抽選などには人がたくさん集まるので実施は無理だろうということになった。なお、花火のみ実施は可能かもしれないということだったが、そのへんの調整はしているのか。

○佐藤建設産業課長

夏まつりについては、先般の実行委員会にて農協が農協まつりは開催しないという判断だった。農協まつり以外のみを実施することも検討したが、お盆で帰省客も多い時期の開催は感染リスクの面もあり、まつり自体を中止するとさせていただいた。安藤煙火店という県内唯一で、しかも平田に工場がある煙火店だが、いろいろと花火が中止になり大変厳しい状況にあるのではと危惧している。少しでも地元の煙火店の支援になり、この地域も元気になるのであれば、花火だけでもなんとか上げることができないか実行委員会で検討した。日時や会場を全部お知らせしてしまうと人が集まって密になるためいろいろな配慮が必要で、人が一か所に集まらないように少し花火を上げて音を聞いて頂けたら少し元気になるのではないかなという想いで、進めている。日付と時間だけはお知らせする予定である。密にはなってしまうが、より多くの方から楽しんでいただくために今検討しているところである。すべてが中止、中止となってしまうので、何かできるものかと考えている。

○長谷部耕次会長

行政のほうは通年予算となっている。我々経済界のようにその都度その都度の状況で対応するということはあまりないと思うが、先日の商工会の話し合いではコロナの第2波、第3波の状況によっては考えざるを得ない訳である。ここに資料として出ていると、どのくらい考慮されたのか疑問に思う。もう少しその先を見て協議をしていただければありがたい。もう一つは冬の十二滝と温泉ツアーが1月下旬から2月上旬開催予定とあるが、非常に危険な時期でもあり、実施できるのか、もう少し検討していただきたい。

○佐藤建設産業課長

今後のコロナの第2波、第3波ということも懸念されるが、一応これは年間の予定表という資料なので、開催にあたっては実行委員会のほうでその時の状況に応じて開催できるのかどうかを検討して向かう。どうしても状況が許さないようであれば中止ということも十分あり得るかと思う。

○長谷部耕次会長

今まではこういうスタンスでこういう目線でやってきたという考え方でなくこのコロナという状況に応じて臨機応変に、改革するものは改革する、やれないものはやれないというような適正な判断をおこなってほしい。

## 6. 協 議

### (1) 令和2年度 平田地域協議会年間計画

○山口支所長

本日、第1回目を開催しているが、次回は10月の上旬を予定している。この時には内容の1点目として今年度市長とのグループミーティングを開催したいと思っているが、皆様からこの点にご意見をいただきたい。さきほど今井委員からお話いただいた内容の、令和元年度市長報告会は時間が短時間で終わってしまったということもあり、会長のほうから市長のほうに申し入れをさせていただき、ぜひとも皆さんと懇談する場を作ってほしいということでご提案をいただいたところである。その回の第3回目を11月の下旬とみており、その回の1か月前となるがグループミーティングの進め方の打ち合わせをさせていただきたいと思う。併せて、ここに書いてないが、さきほど企画調整課からお話があった新市建設計画についての諮問ということもあるので、少しこの点をお含み置きおいていただければと思う。そして第4回目、最終回を予定しているが、令和3年の1月に令和2年度の諸地域課題ということで、グループミーティングを行うので、ある程度はそこで意思が伝わるものだと思うが、まずは報告という形をとり、その内容について皆様からご協力を頂くことになる。今年度の一番大きなものは市長との直接懇談をやらせていただきたいと、この点についてお話ししたい。

○長谷部耕次会長

今の説明について皆さんから質問ありますか。無ければ今、課長が説明したように市長とのグループミーティングについて、これは市長のほうからぜひ呼んでくれということだった。自分もそういう要請があれば実際現場を見て適正に実行すべきものなのか、財政上から少し我慢をしてもらうことなのかと市長が判断したいということなのだと思う。この市長を呼ぶグループミーティングについて、意見のある方どうぞ。

○熊谷一志委員

確認したいのは、グループミーティングというのは協議会の委員と市長との懇談会みたいな形ではないのか。

○山口支所長

まずはそういう形である。

○熊谷一志委員

その内容については、この協議会の中で検討してこういう話し合いをしたいという提案という形になるのか。

○山口支所長

はい。前回開催したときは、なかなかそれまで事業化が進まなかったひらた生涯学習センターの整備等について議論をさせていただいた。例えば次年度の予算に反映させるとか、具体的な話を皆さんからいただきたいということで、より重要なことを直接お話しいただきたい。

○熊谷一志委員

どんな話をしたいか検討して、この議題でミーティングをしてくださいという形の会になるということでよいか。

○山口支所長

議題を1～2点位に絞って話を進めるが、市長に直接お話しする機会はなかなか無いと思われるので、それ以外の地域課題についても、例えば十二滝の具体的な取り組みが大きな課題だとすればそれを一つに纏めながら、他にも二つ三と提案して話を進めていくというような形でもよろしいのかと思うがいかがか。

○熊谷一志委員

大体の流れは分かったが、今年の11月に実施する予定なので、新たに考えを出すというわけにはいかないと思うので、去年まで検討してきた内容を出すのが妥当だと思う。それに対しての市長の考え方が議事書に書いてある。それについての市長の考えというのは、ある程度あなたたちもやりなさいよとお金を出してくれということでは済まないよという考えをもっているように思える。だからそのグループミーティングでも、すごく大事だからお金を出して整備をお願いしますと言ってもなかなか受け取るというのは考えにくいところがあるので、第2回目のミーティングの時に進め方や作戦を考えてやったほうがいいのではないかと思います。

○山口支所長

先程いただいた点でも大きなことをやっていこうというのはなかなか容易でないということなので、できるところから次の会でいろいろご検討いただければありがたいと思う。

○長谷部耕次会長

市長とのグループミーティングではひらた生涯学習センターの調理室や風呂等、何年間か課題だったところを市長自らその現場を見て直していただいた。やはり現場を見ての判断というのは非常に重要である。こういう経緯もあるので、このグループミーティングというのは、市長のほうから自分を呼んでくれと、あなた方と現場で話をしたいという意向があつてここに出てきたことである。もう一つ平田地域の重要課題として解決に苦労しているのは十二滝の問題である。十二滝は山崩れがあつて修繕はしたものの、滝つぼのほうは十何年間も放置された状態であり、現在は観光を勧める環境ではない。これはあそこの山は林野庁の管轄下で、滝見台が崩落したときに林野庁のほうから危険だから次の工事は簡単にはできないという言われ方をしてきたというのが現実である。これからあの滝をどのように県の百名山の名物の滝に入れるのか入れないのか、現在これが最大の平田地域の課題となっているので、ぜひ市長からはその現場を見て頂きたいと私は考えている。やはり現場を見ない机上の議論というのは効果が無いので、お互いそこで議論

をして共通点ができてくれば前に進めることもできるのかなと思う。そういうことが市長の言っているグループミーティングということなのである。今の課長からの説明についてほかに何かあるか。

○佐藤美恵委員

グループミーティングの進め方は分かったが、第4回目にある市長に報告する地域課題というのは、グループミーティングと地域課題とは同じものにするのか別なのかということ確認したい。また、今会長のほうからあった十二滝の整備が平田地域のとても重要な課題であるのは十分わかっているが、最初の挨拶のときに平田住民が住みよいまちにするためにこの協議会があるとおっしゃっていたので、十二滝の整備だけで平田地域の住民の方たちが住みよいまちになっていくのかなということも少し考えていったらどうなのかなという気がするので、検討頂きたいと思う。グループミーティングと地域課題を同じにするのかまた別のものを地域課題とするのか確認したい。

○山口支所長

ただいまの件については、11月のグループミーティングのときにはあくまでも話し合いというような形になり、その場ですぐ市長からの回答はいただけないと思う。持ち帰って関係各課といろいろ調整を図ったうえで、対応についてのお話がいただけるのかなと思う。この話だけで終始してもいかかかと思うので、その後は新たな課題等いろいろな点での地域協議会となっているので、その辺は検討させていただければと思う。

○佐藤美恵委員

その地域課題とグループミーティングの内容を違わせるかどうかということは次回協議会の時に決めるということか。

○山口支所長

第2回目の時のテーマが市長とのグループミーティングの進め方ということだけでは少し物足りないような感じもするので、この時も違った形で考えたいと思うがいかがか。

○佐藤美恵委員

了解した。

## 7. その他

○田中井広志委員

さきほど郡鏡・山谷コミ振の佐藤委員から十二滝の整備は住みよいまちをつくることにふさわしいのかという意見があったが、それは過疎地域の整備計画等もあるので、そういったことでやっていくということであり、それは住みよいまちづくりになるのではないかと思うので、よろしく願いたい。

○山口支所長

各地域の住みよいまちづくりということであるが、さきほどまちづくり推進課のほうからお話しあった過疎債のことに関わる問題は地域づくり等に関わることだと考えている。今後各コミュニティ振興会や各自治会のみなさんとお話し合いをする中でもそういうのが出てくるのかと思うので、その辺を加味しながら会を進めてまいりたいと思う。今後ともよろしく願いたい。

## 8. 閉 会

▶石黒由香副会長